



抑制トマト

やさいの里営農センター
営農指導担当者 今関 利樹

農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



水稻

販売開発部
営農指導員 小柳 哲義



写真③ 異常茎 (めがね)

日照不足や窒素過剰などにより、局所的なホウ素・カルシウム欠乏が起ると助長されます。生長点で欠乏が起ると、異常茎(写真③)や芯止まりになり、果実で欠乏が起ると尻腐れ症状(写真④)になります。



異常茎、芯止まり、尻腐れ対策

〜今作以降に向けて〜

昨年を振り返ると、7月下旬以降は低温、日照不足が続く、異常茎や芯止まり、尻腐れ果が発生しました。10月は長雨や二度の台風の影響があったため、湿度の高い状態が続く、裂果や果実の黒ずみが発生し、品質の低下、収量の減少した生産者が見受けられました。

果実の黒ずみ(写真⑤)は裂果した部分に雑菌が侵入することで発生するため、まずは裂果を少なくする必要があります。裂果の原因は複数ありますが、ハウス内の湿度が高い状態が続くと葉から水分が出ていない(蒸散しない)ため、果実に水分が集中し、裂果が起こりやすくなります。



裂果、果実の黒ずみ対策

対策として、土壌が養分過剰の場合に症状が起こりやすくなりますので、圃場の残肥に応じて元肥量を調整し、追肥主体で草勢管理を行いましょう。また、定期的に土壌診断を行い、塩基バランスを調整しましょう。日照不足が予想される場合には、予防的にホウ素、カルシウムの葉面散布を行うと効果的です。また、遮光ネットを使用している場合は除去し、日照量を確認しましょう。



写真④ 尻腐れ



写真⑤ 裂果・黒ずみ

対策として、長雨の際はハウスを締め切りにせず、少しでも換気をする事で湿度を下げます。また、台風通過後は速やかに換気をしましょう。生育後半においては、収穫した段階までの葉を取り除き、風通しを良くすることで雑菌の繁殖を防ぎましょう。

いよいよ管内でも平成30年産米の田植えがスタートしました。今年は3月中旬以降、気温の高い日が続いたため、苗を焼いたり、徒長したりと、温度管理に苦労される方が多かったようです。



初期害虫の対策

水稻における代表的な初期害虫は、イネミズゾウムシとイネドロオイムシです。どちらの害虫も、水田付近の畦畔やイネ科雑草地で越冬し、田植え後の若苗を加害するため、初期生育が遅れたり、分けつが悪くなったりと、その後の生育や収量にまで影響することがあります。

●イネミズゾウムシ(写真①参照)

越冬した成虫が、田植え直後の苗をかすり状に食害します。また、産卵後の若齢幼虫は根を食害するため、生育遅延や分けつの低下など、減収につながる恐れがあります。箱施薬剤(苗箱処理剤)による防除は、幼虫被害対策であるため、成虫の食害は防除できません。初期に成虫の発生が多発する場合は、粒剤や粉剤での本田防除を行います。

●イネドロオイムシ(写真②参照)

5月下旬以降、越冬成虫から孵化した幼虫が、葉表をかすり状に食害



写真① イネミズゾウムシの成虫



写真② イネドロオイムシの幼虫

します。多発すると水田一面が真っ白に見えることもあり、茎数や穂数の減少につながります。発生が少ない場合は、箱施薬剤で防除可能ですが、多発地域では粒剤や粉剤での本田防除と併せて行ってください。



箱施薬剤の有効活用

箱施用の目的は、薬剤の成分を移植前の苗に吸収させることです。そのため、薬剤の効果を十分に発揮させるためにも、次のことに注意しましょう。

- ・使用量を守り、均一に散布する。
- ・散布後は軽く散水してから移植する。

近年では初期害虫だけでなく、いもち病や紋枯れ病を予防できる殺菌剤入りのものや、初期の斑点米カメムシまで効果を示すものも販売されています。目的に合った薬剤を選択し、効果的に活用することで省力化に繋が

ていきましょう。



問題雑草の対策

雑草防除雑草に対しては、初中期一発剤だけの防除は難しいことから、体系処理を前提とした防除を行います。

●コウキヤガラ

角が立った三角柱状の雑草で、発生は5月上旬からと早めです。JAお勧めの初中期一発除草剤は、ボデーガードプロです。

●クログワイ

細長い筒状をしており、先端に花を形成します。5月上旬から発生し始め、発生期間は長めです。初中期一発除草剤のコメントや、中期除草剤のアフシズMXがお勧めです。

●ホタルイ

クログワイと似ていて細長い筒状です。先端よりもやや下に花をつけます。初中期一発除草剤と併せて、中期除草剤のレブラス1キ。粒剤がお勧めです。

●オモダカ

主に塊茎で繁殖し、矢じり状の葉が特徴です。だからだと発生期間が長いので、体系処理による防除が必要です。お勧めの中後期除草剤はアトトリです。

3月の分析経過について	
合計10点	
残留農薬分析点数	多成分一斉分析
	春ネギ.....7点
	ニラ.....1点
	トマト.....1点(インショップ)
	レタス.....1点(インショップ)

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 合計51点